

みなさんと歩いた30年 こんにちは 戸沢ひろゆき です

若葉の季節を迎えました。野辺みなさん、お元気でご活躍のことと存じます。振り返れば、1975年、仲間や近所から押されて市議会に立候補しました。党派をこえたご支援をいただき議員となり、今日に至りました。

早いものでかれこれ30年、「あきる野民報」市議団「コース」を配布し、私流に街頭で訴え、市民と対話し、相変わらず走りつづけています。

本会議を一度も休むことなく、連続113回、定例市議会で一般質問を続け、微力ですが全て市議会に立候補しました。党派をこえたご支援をいただき議員となり、今日に至りました。

14年前、党の分担の都合によつて、野辺、小川の地域が戸沢から、松平重幸氏、山根とみえ議員へと、活動の地域が変



三十年前からの写真を集めてみました



将来に大きな負担をかかる温泉事業は中止させましょう
税金は子育て支援、福祉、くらしに
**野辺 小川地域
で頑張ります。**

小沢酒店前のガードレール



野辺644番地の排水対策を実現



八雲神社前の小川の清掃をあこなう



ブローキング ウィンドウ理論の指摘を受け、ガードレールのいたずら書きを消させました。

みゆき組のダンプ公害

ダンプが狭い生活道路を大名行列のように朝早くから通り、碎石がこぼれていきました。私たちは小沢酒店前で1日何台通過するか、一般車との関係はどうか、調査しました。住民が運動をはじめる川崎市から社長が訪ねてきて「ダンプの通過の時間帯を決めたい」と申し出しきました。私たちは、子どもの通学時間だけでも止めて欲しいと求め、要求を聞き入れてもらいました。

小沢酒店前に郵便ボストンを

1977年のことです。当時は睦橋道路が今のように広がっていた時代でした。大六天に住む筑紫先生（高校教師）が駅に行く途中に「郵便ボストンが欲しい」といわれました。当時は通信手段が少なく、ボストンは切実な要求でした。小沢酒店の親父さんに相談すると「店の邪魔にならなければいいよ」心良く了解していました。ただき設置することができました。

いま、通勤や通学前に気軽に小沢酒店前に立ち寄りボストンに手紙を投函する住民の姿を見るたびに、人のよかつた小沢さんを思い出します。いまも、奥さんが昔ながらの真っ赤な帽子をかぶつたなボストンを掃除してくれています。



小沢酒店の郵便ボストン

たり、カーブミラーを道の角に付けさせたり、いろいろありました。下原、大六天のあたりはすり鉢のような地形が多く、役所も苦労していました。

強く記憶に残っているのは、小沢酒店北側の、道路が左右にわかれる手前の排水問題でした。大雨のあとなど2日以上も畑から水が湧きでました。みゆき組からポンプを借り、2日間かかって排水しました。この時、今は亡くなられましたが近所のおばあさんが、おにぎりを作ってくれて届けてくれました。みんなで手も洗わずにパクついたことを昨日のことに思い出します。

通学区域をめぐつて母親が立ち上がりました。

ちょうど子育て時代に移り住んだ私たちの時代は、どこの学校も生徒数が急増し、プレハブ校舎を建て対応した時代でした。

野辺・小川地区は小学校、中学校の通学区域の変更が大問題となりました。屋城小がつくられ、東小から小川地区が分かれ、前田小ができると野辺地区が東小と前田小（1977年4月開校）に分かれました。

1983年、御堂中学ができると七辻、横吹、日室塚、一部宮ヶ谷戸、大六天の生徒62人が東中から秋多中に移動するという教育委員会の方針が発表されました。

私たちが作成した「秋川民報」のコピーが親たちの手から手に渡り大きな問題になりました。市は二宮地区会館で説明会を開催することになりました。当時は清水恒夫教育長でした。母親たちは、子どもを思う気持ちから泣いて訴えました。そして、どううう62人は東中に卒業まで残れるようになつたのです。親が子どもを思う気持ち、子どもも達の地域の絆の強さを示しました。

身近な生活環境の整備

下原の行き止まり道路に防犯灯をつけたり、「馬入れ」の道路を舗装したり、

前田小の校庭が北側へ

また、住民運動の成果として忘れないのが、前田小の校庭が校舎の北側に作られたことです。校舎は通常、北側にあるのが普通ですが、考慮されたのです。住民が団結して市の計画を住民運動で変えさせることができた良い例です。

みなさんと共に運動できたことがどんなに自分の生きがい、喜びであったかと振り返って当時を思いおこしていま



東部図書館

ホームタウンと公共施設

前田耕地のことですが、日本住宅公団が504世帯20000人の人が住むという、秋川団地（仮称）をつくると発表がありました。

1976年に市と公団が協定書を締結する動きになつた時、私たちは「大規模宅地開発指導要綱」により、全容を市民に説明する責任があると訴え、説明会を開催させました。

また、同指導要綱にもとづき、前田小、野辺地区会館、児童公園、幼稚園、保育園用地の確保を求めました。これらの条件が受け入れられ協定が成立しました。

市は公団に対して、住宅に出入りする道路建設を協定書で約束しましたが、社会状況から履行できず、幼稚園・保育園の用地を東部図書館建設用地として約一億円で購入しました。近々開館する図書館と複合施設、「エル」がその場所です。

当時、公団の江口計画部長と玉泉寺の先代の住職永井さん（京都大学建築学部卒業）が友人で、紹介してもらえ、諸々の交渉ができました。本当にありがたいことでした。